

かしの木

第12号

社会福祉法人
せたがや榎の木会
機関誌第12号

2012.11 発行

「相談支援センターあい」の開設に当たって

理事長 鈴木 昭雄

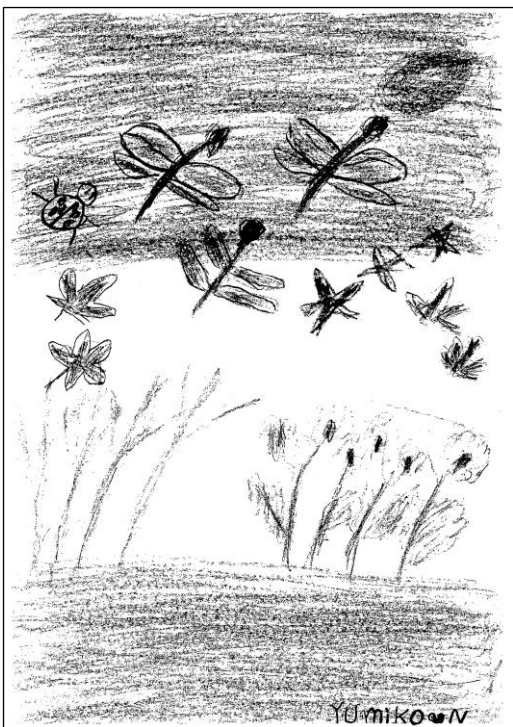
せたがや榎の木会は、十月一日に、「相談支援センターあい」を開設しました。新事業所の主な任務は、①障害者と保護者からの相談に応じて助言等の必要な支援を行い、②本人のニーズに即したサービス利用計画の作成とモニタリングを行うことです。この事業を実施していく中で、障害者の一人ひとりに対して、「安心して地域で自立した生活を継続していく」うえでの諸課題を把握し、「その人らしい生活スタイル」を本人達と共に考え、地域資源を十分に活用しながら、包括性と継続性を備えた生活支援を目指していきます。

本事業所の開設は、当法人にとって長年に亘る懸案事項でした。法人内に「地域生活支援センター研究会」を設け、平成二十二年六月から約一年を掛け、事業開始に至るまでに検討しておかなければならない課題について討議を重ねてきました。その間、世田谷区の瓜生課長を講師にお招きしてケア・マネジメントに関する勉強会を開催するとともに、既に事業を開始し、実績

を上げている相談支援事業所（三所）について実地調査を行いました。瓜生課長はもとより、実地調査にご協力いただいた事業所の関係者、そして熱心な討議を行ってくれた職員の皆さんに対して、改めて感謝の意を表させていただきます。

本事業には、また、平成二十年に当法人の社会福祉事業として再出発した、旧・民営福祉作業所がうけ伝えてきた“良き伝統”に繋がるものがあると思っております。“家庭との強い絆や信頼関係”を基盤として、本務である授産事業に併せて実施してきたインフォーマル・サポート（身近な相談支援、緊急時のサポートなど）の利点を、専門性を備えたフォーマル事業の中に積極的に取り入れ、生かしていきたいと思っております。

また、理事長としては、本事業の開始が法人事業全体の活性化の面でも大いに貢献してくれるものと考えています。利用者本位を基本理念とする地域法人として、今後とも事業間の緊密な連携による相乗効果を発揮しつつ事業の一体的な運営を図り、より高いレベルでの法人理念の実現を目指していかねければなりません。そのような努力を継続していく中で、障害者の声に耳を傾け、それぞれの生活設計に深く係わりながら、既存資源の調整や新資源の開発にも寄与する相談支援センターの機能が、中核的な役割を担ってくれるものと期待しています。



「相談支援センターあい♥」開所は希望の星

相談支援センターあい

管理者 堀田和子

平成十七年、グランドデザインから始まった福祉分野における大きな改革。

支援費制度からの移行。十八年には障害者自立支援法成立。各事業所は戸惑いながらも法内化・移行に向けて準備を進める中、支援面においては、利用者の個別支援計画の作成という作業の過程で、利用者一人ひとりのニーズや支援について、ご本人、ご家族と話し合う機会が増えました。その中で現在の状況や将来のことを一緒に考えていくうちに、日中活動の場だけの支援計画ではニーズを捉えきれないもどかしさがあり、さらには、包括的な生活の全体像が見える計画が必要であると感ずるようになりました。

また、民営福祉作業所時代からインフォーマルに行ってきた生活全般の相談や支援についても何とかフォーマルなサービスに変えられないか、さらにわくわく祖師谷を始め最近の各事業所の抱えている課題（高齢化、一人暮らし、ご家族の高齢化等）についても一事業所では解決できないことが増えしてきました。

一方、法人内で、平成二十二年から

「知的障害者地域生活支援センター研究会」を立ち上げ、議論を積み上げ、相談支援センターの見学、調査等も行い二十三年春に報告書を出しました。

その中で「知的障害者地域生活支援センター」の開設・事業化への提言をしました。要約すると①相談支援事業の実績作り②ネットワーク作り③包括的な支援計画作成④ケアマネジメント技能の習得に向けた研修の実施です。

（二十三年十一月発行「かしの木」十号に記事掲載）

以上のように、地域の中で暮らし続けるために困った時に何でも相談できる「基本相談支援」そして、当事者の望む生活、希望、将来の夢などを盛り込んだ計画作成には、「計画相談支援」が不可欠です。

今回の相談支援センターあい♥の開所は法人内の様々な思いが実を結んだ結果だと思えます。

「あい」は相（あい）であり、相方（あいかた）であり、愛♥です。

どうぞ、みなさま「相談支援センターあい♥」のドアをたたいて下さい。

どんなご相談にも真摯に対応いたします。

相談支援センターあい♥開所式

十月一日、法人として念願だった地域生活を支える核となる「相談支援センターあい」が開所しました。三日には、障害者施策推進課知久課長、地域生活課瓜生課長をはじめ砧保健福祉課 渋谷課長、各相談支援事業所及び基幹相談支援センターの皆様、親の会会長他、日頃支えてくださっている地域の方々にご列席頂き、開所式を迎えることができました。皆様のご期待に応えられるように日々精進していくこと、そして法人全体としてこの事業に取り組んでいくことを再確認した開所式となりました。



（特定相談支援・指定障害児相談支援）

相談支援センター あい

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-21-1

祖師谷ふれあいセンター わくわく祖師谷内 2F

電話（FAX）03-6411-2289

URL : <http://kashinokikai.net/>

e-mail : soudan-ai@jc4.so-net.ne.jp



第十回「秋桜祭」和やかに開催

千歳台福祉園

施設長 村瀬 精二

地区会館利用サークル二十余団体、福祉園保護者の会と三者共催の形で六月から準備会合を持ち、進めてきました。地域との関係が具体的な交流となる大事な一日です。それぞれの立場を承知して託すところ、受けるところ、協力するところなど役割分担をしっかりと確認しました。またボランティア六十人、地域の方、実習した学生、ご縁のあった方、朝早くから、片付け、打ち上げまでお付き合いくださいました。エネルギーの大きさを感じます。

感謝です。

女性会を中心として「楽しく」を motto に、自分たちのサークルの領域だけに留まらず、福祉園で食事をして、作品などを見て回り、地域の方々と利用者と関わることで、折々に触れ合う機会にしていただけでした。普段は緩やかなつながりだからこそ、長いお付き合いになり、お祭の時は「何したらいいの?」と気持ちよく応援いただける自然なお付き合いになっています。地域にお返しができる園にならなければと感じました。

「ハプニングに強い下馬」

下馬福祉工房

施設長 吉田 快永

世田谷区立下馬福祉工房は、就労移行支援と就労継続支援（B型）を行う事業所ですので「働く」事がメインになっており、一日を通して作業することが基本です。しかし、先日急遽、建物全体が断水することとなり、作業どころかトイレすらままならない状態となりました。お知らせがあったのが二日前の夕方。「さてどうする。」そんな突発的な状況にも対応できる下馬福祉工房?! 緊急で職員会議を持ち、グループでの外出をすることにしました。行き先を決め利用者さんにお伝えするのが前日。利用者さんもびっくりです。

急な予定変更が得意な人ばかりではありませんが、そんな中でも皆さんなんとか受け止めてくださいました。

当日は、午後一時からの断水予定でしたので、給食を三十分繰り上げ、食器も半分は紙の容器にし、厨房の片づけ対策も万全にして出かけました。

下北沢の絵ハガキのイベントに出かけたグループとスカイツリーを見に行つたグループがありました。急な外出行事にも関わらず、無事に・楽しく（?）過ごすことができた、ハプニング

グの一日でした。

けれども、準備や心構えのできないまま震災などで断水になった時のことを考えると、どーなってしまうのか? 今後の災害対策について改めて考える機会となりました。



大原秋まつりを終えて

大原福祉作業所

所長 佐藤 和貴

台風も去り、秋まつり当日は三十度を越す夏日となりました。あじさい会（利用者会）の方の元気な開会のあいさつで幕を開けました。

今回の目的は、利用者さん達がホスト役になること、地域の方にご協力して頂く事でした。利用者さんは、フルーツポンチの売り子や、駄菓子つかみどりのお店を出店し、地域の方には設

営や模擬店の出店をお願いしました。

スペシャルイベントの演劇「ALW AYS 三丁目の夕日64」は練習時間が少ない中、利用者・スタッフ共に一杯演技をしました。ミニライブは昨年引き続き『エヴァトライブ』さんにお願ひしました。ライブ終盤では利用者さん、お客様ともに踊られていました。

これからも一歩ずつ地域に根付いていければと思っています。

最後にご協力頂きました、保護者の方・地域の皆さま・法人内の職員に感謝とお礼を申し上げます。



「プレリズ新体制!」

プレイ&リズム希望丘

管理者 布施 麻紀子

この夏も、恒例のマクドナルドやデニーズ、羽根木公園などに元気一杯外出してきたプレリズの子ども達。注文も会計も一生懸命頑張る姿に、「ゆっくりで良いんだよ」という優しい笑顔

がその場を包みます。プールも公園も思いつき遊び尽くす。今年も変わらないプレリズの夏休みでした。

しかし今年度は法改正により従来の自立支援法から児童福祉法に移行し、ご利用の制度や職員配置等が大きく変わりました。幼児グループは「児童発達支援」、小学生は「放課後等デイサービス」へ。小学生・幼児グループはサービスタイムが四時間になり、課題ではない部分でもお子様と丁寧に過ごす時間が増えました。一方、世田谷区の補助事業であった中高生グループのタイムケア事業は今年度中に廃止になり、放課後等デイサービスに法内化します。私達が最高のサービスを提供するために新しい制度をどう使いこなすか。それを常に考えながら、中高生の皆様にも今まで以上に『楽しいプレリズ』になるよう、努力して参ります。



研修委員会の動向

研修委員長

(千歳台福祉園) 村瀬 精二

「現場研修」が法人を単位に動き出しました。

法人内の他事業所に出向き、仲間の働きぶりに触れ、感じ、自らの仕事ぶりを振り返る機会になります。平成二十四から二十五年にかけて、それぞれの希望に沿って研修に参加する段取りで、初年度は三十人程が参加しております。また、外部講師によるセミナーは二月に三島先生から映像で見る障害者福祉の実態を印象深く学びました。さらに、十月に大正大学の玉井先生から「なぜ、知的障害者に虐待が生じるか」をテーマに支援のありようについて考えさせられました。続いて、二十五年三月に駒澤大学の佐藤先生をお招きして「本人本位の支援」の視点からお話をいただく予定です。

真面目に、一生懸命に実践している現場があります。そこに感性を磨くことと、専門性の視点からエネルギーを注入していただくことで、支援レベルが上がり利用者満足の評価をいただける、そんな底力になる研修でありたいと考えています。

職員異動のお知らせ

人事異動

相談支援センターあい

管理者 堀田和子

(わくわく祖師谷 施設長兼務)

相談支援センターあい

相談員 中川 邦仁丈

(前わくわく祖師谷 支援員)

退職

千歳台福祉園

大沼 潤(七月三十一日)

世田谷区手をつなぐ親の会

知的障害者の権利を守り、
教育と福祉の充実を目指し
活動しています。

連絡先：事務所

世田谷区世田谷 3-17-7-308

TEL 03-3706-0067

FAX 03-3706-0246

URL : <http://oyanokai-setagaya.com>

編集発行 社会福祉法人せたがや榎の木会
〒155-0033 東京都世田谷区代田 1-29-5
TEL 03-5481-1010
FAX 03-5787-4051
E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp
URL : <http://kashinokikai.net>
編集委員 佐藤 伊藤 山口 大瀧 齋藤 小野

上町福祉作業所、用賀福祉作業所、
喜多見福祉作業所のみなさんから本
紙へ5点の絵を提供していただきました。
ありがとうございました。